

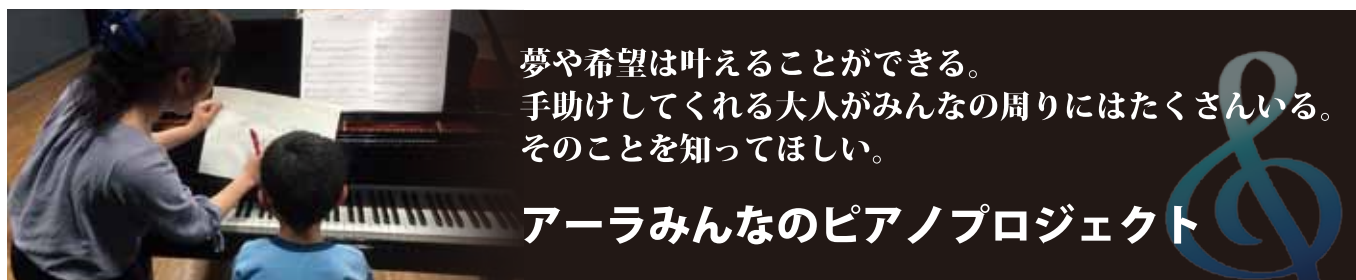


「ピアノを弾きたい」という夢を叶えられない  
子ども達にこのピアノを繋げていく。

## アーラみんなのピアノプロジェクト



2018年10月スタートした「アーラみんなのピアノプロジェクト」。  
ピアノを弾きたいという気持ちがありながら、家庭環境等の理由でそれを  
叶えることができない子ども達に、月2回程度のペースでその機会を提供し  
ています。  
使用しているピアノは、兵庫県の故 脇坂夫婦から「夢・希望をつむぐピアノ」  
としてアーラに寄贈いただいたヤマハ職人による特注品です。  
プロジェクトに賛同していただいた地元ピアノ教室の先生や音大生が交代  
で、寄り添いながら子どもたちの可能性や達成感を育む場となっています。



夢や希望は叶えることができる。  
手助けしてくれる大人がみんなの周りにはたくさんいる。  
そのことを知ってほしい。

## アーラみんなのピアノプロジェクト

このピアノは、それにふさわしい「物語」を持っている。

2018年2月5日の冷え込んだ小雨の日に、ピアノは兵庫県西宮市からアーラにやってきた。発端は、『祈りのコンサート』などのコーディネートである作曲家の佐野秀典さんからピアノを寄贈したい方がいると2017年の夏に連絡をもらったことからでした。音楽をこよなく愛するご夫婦で、奥様は数年前に亡くなられ、旦那様も病の床にあるとのこと。ピアノが好きだった奥様の暢子さんに、夫の憲昭さんがプレゼントしたヤマハ職人の手による特注ピアノだそうです。お子様はいらっしゃらず、幾度の困難も二人で助け合い、喜怒哀楽を共にした夫婦愛の結晶のピアノです。憲昭さんが亡くなられる直前、ご本人の希望で「夢・希望をつむぐピアノ」としてアーラに寄贈されることとなりました。その想いを受け継ぎこのプロジェクトが生まれました。

このプロジェクトのミッションは、諸々の事情で夢や希望を果たせない子ども達の心に、前を向いて立ち上がる勇気をもってもらいたい。

「将来は保育士さんになりたい。子ども達と楽しく歌えるようにピアノを習いたい。」

「母子家庭でピアノ教室に通わせるのが難しい。」

「ブラジル人の私は楽譜も読めないけど、子どもには音楽を習わせてあげたい。」

「集合住宅でピアノが置けず、経済的にも余裕がなく習わせることも難しい。」

申込書の応募動機には、子ども達の夢、そして親御さんの思いが書かれていました。プロジェクトに賛同くださった地元ピアノ教室の先生6名を迎え、初年度となる2018年10月、19名の子ども達を受け入れスタートしました。



▲先生に演奏をお願いして踊りだす、音楽って楽しい♪



▲大好きな先生と久しぶりの再会



▲ト音記号、ヘ音記号のドレミの練習

初日は心配そうに緊張した面持ちだった子ども達も、回数を重ねるうちに曲が弾けるようになり、うまくなりたい、新しい曲をやりたい、と向上心が芽生えています。型にはまらないレッスンなので、時には先生にピアノ演奏をねだったり、自分で作曲したり、歌ったり、踊ったりする子もいます。その時の活き活きとした瞳がプロジェクトの意義を物語っています。

2年目の2019年度は、音大生にも協力いただき、先生数は17名に。実施回数を増やし、26名の子ども達を受け入れることができました。半数が外国にルーツのある子ども達で、これをきっかけにアーラの「多文化共生」や「私のあしながおじさん」など他プロジェクトも体験したり挑戦したりと、さらに人間関係と可能性が広がりました。

30分のレッスン終了後、子ども達は感じたことをノートに書いて帰宅します。小学2年生の女の子は、習ったばかりの漢字を一生懸命使いながら30分かけてノートを書きます。歌や踊りも大好きで「雪だるまつくろーろ」とミュージカル調に教室に入ってくることも。ここが彼女にとってお気に入りのひとつになってくれていると感じます。



お母さんと一緒にいつも恥ずかしそうに教室に来る小学6年生の女の子。でもピアノの前に座ると堂々と弾いてくれます。先生方と会話をしながら休むことなく参加してくれました。

家にピアノはないけれど、おもちゃのピアノで毎回練習してきてくれる小学2年生の男の子。家では弾けていた曲が、先生の前ではうまくいかなくて思わず涙が。先生は、「泣くほど悔しい!という気持ちがある子は上手になっていくんだよ。」と優しく声掛けします。彼は、めきめきと音が聞こえるほどの上達ぶりを見せてくれました。

保護者の方からは、「子どもが毎回楽しみにしていて、ピアノがなくても自分で口ずさみながら練習しています。楽器に触れて音を出すことがとても楽しいと感じたようで、上手になりたいと欲も出てきて、いろんな刺激を受けたようです。」とお声をいただきました。

「みんなのピアノ」に時間が割けるときに交代でレッスンを請け負ってくださる先生方。なので毎回同じ先生に習えるとも限りません。その日のレッスン内容や子ども達の様子は情報を共有しながら進められます。手を貸してくださる皆さんのもと、寄贈名のおり「夢・希望をつむぐピアノ」へとなっています。現在アーラは大規模改修工事のため休館中ですが、完了後には、プロジェクトも再開していきたいと思っています。

寄付をしてくださる企業・団体・個人の方を募集します。



## 私のあしながおじさん プロジェクト

寄付金額 一口 10,000円

- ※ 改修工事により開催できる公演数が限られるため、今年度は一口 10,000円となります。
- ※ 寄付を頂いた企業・団体・個人のお名前は、アール広報誌、webサイトへ掲載します。
- ※ 特定公益増進法人への寄付として、税制上の優遇措置の対象となります。

実績 2019年度実績 鑑賞者のべ146名(うち For Family 制度での鑑賞 85名)

### 2019年度 子ども達からあしながおじさんに届いた お手紙

2019.7.24 文学座公演『ガラスの動物園』鑑賞

相手の視線を気にせず自信を持って娘のために動ける母がすごいと思いました。私もコンプレックスがあるけど、自信を持っていきたいと感じました。(中学1年生)

2019.8.31 かに寄席 納涼 鑑賞

学校の授業で落語に触れ、寄席に行ってみたいと思っていた所チラシを見て応募しました。一人で何人もの役を演じる姿を見て、とてもすごいと思いました。(高校2年生)

2019.9.21 森山威男ジャズナイト2019 鑑賞

ピアノがメインのジャズが好きだったのですが、森山さんのジャズはドラムメインで、力強く派手で格好よくて、新しい扉が開けた気がしました。本当に鳥肌が立ちました。(高校2年生)

2020.1.5 新日本フィル ニューイヤー・コンサート2020 鑑賞

テレビやCDとは違い、すごい迫力が伝わって来て、音が体中に染み込んできてビックリしました。お母さんと2人で素敵な時間を過ごすことができました。(小学5年生・For Family)

2020.1.5 新日本フィル ニューイヤー・コンサート2020 鑑賞

アンコール最後に、ホール天井からキラキラが降ってきました。とっても楽しい時間で、素敵な年明けになりました。あしながおじさん、ありがとう!!(中学3年生・For Family)

2020.2.28 日英共同制作公演『野兎たち』鑑賞

家族の温かみと大切さ、生きることはなにか、大切さを分けることができました。幸せとは何かということが、今回の『野兎たち』を観てよく分かりました。(中学2年生)



▲ 森山威男ジャズナイト2019 での「チケット贈呈式」

### 館長エッセイ

劇場の存在自体が社会課題解決のための「社会的処方箋」になる在り方を目指します。

可児市文化創造センター館長兼劇場総監督 衛 紀生

全国的に劇場の「社会包摂型劇場経営」へのニーズは高まっており、地方議会の視察もここ数年増えています。このことを鑑みて、私は、全国の劇場や音楽ホールの指定管理者になり経営に乗り出すことも検討したいと思っています。劇場の存在自体が社会課題解決のための「社会的処方箋」になる在り方を目指します。

をしたいと思います。

この休館の間にアールをもう一段の高みに押し上げる準備をしたいと思っています。個人的には、可児で生きづらさを感じている子どもには、塾通いを希望しながら経済的事情で叶わない小中高生対象に年3人、3年間の奨学金を支援することを考えています。私ども夫婦揃って公証役場でその旨の遺言書を3年前に作成しております。また、3歳〜5歳の子どもの就学前教育は始めたいと思っています。なぜなら、そこでの非認知能力の涵養は学力を伸ばし、成人後の所得も高くし、生活保護受給者や犯罪者を有意に減少させるとノーベル経済学賞者のJ・ヘックマンの論文で証明されているからです。さらに可能ならば、「アールの授業」を私が学校に出掛けてやりたいと考えています。「利他的な生き方が幸福感につながる」とか「思い遣り、心配り」が自分をも生き生きとさせるというアールの経営理念を分かり易く伝える機会として、将来的にアールの支持者になつてもらえるよう会話をしたいと思います。

アールは大規模改修により半年ほど休みに入っております。日頃から利用頂いている多くの市民の皆様にはご不便をおかけしております。この期間中はアールが次の段階に入る猶予の時間とご理解いただければ幸いです。

さて、私が可児に居を構えて12年の歳月が流れました。この12年は絶えず「あるべき地域劇場」を追い求め、追いかけられ、急かされてきた日々でした。そして日本を代表するナショナル・ブランドの劇場となりましたのも、2017年に劇場経営者では初めて伝統ある芸術選奨文部科学大臣賞で顕彰されたのも、前例のない経営に付いて来てくれた職員と、市民の皆様の多大なるご支持とご支援があるからこそだと思っています。

essay

## alaを飛び出してアーティストとワクワクをお届け！

児童・生徒のための

主催：可児市  
実施団体：(公財)可児市文化芸術振興財団

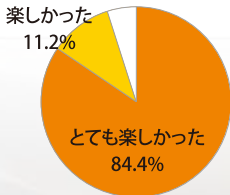
## ココロとカラダワークショップ

講師：【ダンス】新井英夫(体奏家)、【演劇】Ten seeds(劇・あそび・表現活動)

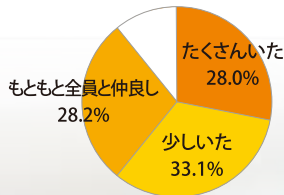
2019年度は、市内小学校11校・中学校3校、スマイリングルームで合計70回実施しました。  
小中学校でワークショップを体験した子ども達のアンケート結果をご紹介します。

参加人数合計 1,899人 アンケート回答数 1,685枚 (アンケート回収率 88.7%)

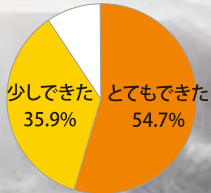
Q. ワークショップに参加して楽しかったですか？



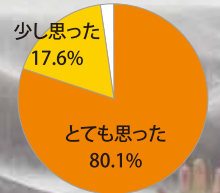
Q. 仲良くなった(初めて話せた)友だちはいましたか？



Q. 自分の考えた表現や意見を、友だちに伝えることができましたか？



Q. 友だちの表現や意見は、おもしろいと思いましたか？



alaからアーティストを連れて市内小中学校そして学校へ行きたくても行けない児童生徒のための教室スマイリングルームへおでかけ。クラス単位で、ダンスや演劇の要素を用いた活動により、子ども達のコミュニケーション能力育成を目指す『ココロとカラダワークショップ』は、2013年度のモデル校実施以来、毎年開催しています。これまでに、通算300回以上、8,000人を超える子ども達にワークショップを届けています。活動には、いつの間にかココロとカラダが開放されて、自分の気持ちを相手に伝え、相手の気持ちを受け取る内容が組み込まれています。

テン・シーズ

Ten seeds

チームで30秒でお題を表現！

与えられたお題をチームで相談して身体で表現。どうすれば相手に伝わる表現になるか…。

▲『ゾウ』を表現中

▶『富士山』を表現中

▲『ラーメン』を表現中

あらいひでお

新井英夫

風のじゅうたん♪

「風」を見える化して寝転んで感じてみよう。  
「わ～まるで海の中にいるみたい～」

## 可児市文化創造センター 2020年度前期日程プロジェクトの中止について

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、以下のプロジェクトをやむを得ず中止致します。再び皆様と笑顔溢れる時間がつくれますことを心待ちにしております。

- ・ ココロとカラダの健康ひろば
- ・ 親子de仲間づくりワークショップ
- ・ 児童・生徒のためのココロとカラダワークショップ
- ・ スマイリングワークショップ
- ・ 新日本フィルおでかけコンサート
- ・ 文学座おでかけ朗読会

## 可児市文化創造センター休館中の利用申請について

可児市文化創造センターは、大規模な改修工事を実施するため、現在 休館しております。

【休館期間】 2020年9月30日(水) まで

◎主劇場、小劇場、レセプションホール、会議室(旧 控室1)、控室(旧 控室2)、演劇練習室、木工作業室は、引き続き改修工事のため 2021年1月7日(木)まで使用できません。

※ 2021年1月8日(金)～10日(日)は、市行事およびメンテナンスのため、一般への貸出はございません。

休館中の利用申請は、臨時受付窓口にてお願いします。(受付時間が変更となりました。) 受付可能施設、利用料金等 詳細はアー・ホームページをご参照ください。

【受付場所】 可児市役所 西館1F [※土日祝を除く ※7/13(月)～7/20(月)は受付休止となります。]

【受付時間】 5/1(金)～6/30(火) および 8/3(月)～9/30(水) ⇒ 9:00～12:00

7/1(水)～7/10(金) および 7/21(火)～7/31(金) ⇒ 9:00～17:00

可児市文化創造センター

〒509-0203 岐阜県可児市下恵土3433-139

✉ info@kpac.or.jp

TEL.0574-60-3311 FAX.0574-60-3312

▶電話対応 9:00～17:00 (土日祝を除く)

(大規模改修工事による休館)

2020年9月30日(水) まで